

「地域資源活用型ビジネスを生み出す、
環境配慮型ライフスタイル推進事業」
事業の実施内容及び実績に関する報告書

平成 25 年 3 月

環境配慮型ライフスタイル推進協議会

1. 地域の課題

多摩地域では、市民・専門家・行政が協働する取組みは、地域の特性を踏まえ、様々なチャレンジが行われています。これらのチャレンジは、ボランティアを基本とする市民活動のあり方に大きな影響を及ぼしつつありますが、市民が主体的に集まり地域農産物の流通や地域発電所などのコミュニティビジネスを始めようとする活動については、地域・市民活動間の連携と協働のプロセスをどうデザインするか、人材をどう育てるかなど、課題が多い状況です。

そうした状況下で、市民と専門家・行政が協働した環境配慮住宅型研修施設（小金井市環境楽習館）が誕生し、運営が始まりました。

その施設で実施してきた地球環境から見た建物とライフスタイルの検証から、多摩地域ならではの「環境資源配慮ライフスタイル」を展望し、本事業では、「環境資源配慮ライフスタイル」を基盤にした市民と専門家・行政の新しい関係性を構築し、より多様な「協働」を発展させることで、地球温暖化抑制に地域が貢献することを目的に、『地域資源活用型ビジネスを生み出す、環境配慮型ライフスタイル推進事業』を実施することとなりました。

2. モデル事業の概要

市民・NPO、専門家・研究者、小金井市との協働プロセスを通じて建設した環境配慮住宅型研修施設を主な舞台とし、多摩地域の「環境資源活用ライフスタイル」を確立し、これからより盛んになっていく地域の環境問題解決に取り組む市民と行政・企業・大学などの多様な「協働」プロジェクトを発展させる場を作り、平成24年度以降、具体的なプログラムを実践、小金井市から環境資源活用ライフスタイルを発信していくことを狙いとして『地域資源活用型ビジネスを生み出す、環境配慮型ライフスタイル推進事業』を実施しました。

本事業は以下の3つの事業を核に実施されました。

(1) 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施

地域の市民が主体となり、大学や研究機関と協働しての共同研究を行う「雨風ゼミ」を実施し、平成23年度の研究結果を、2冊の冊子「雨風BOOK」、「雨風ライフガイドブック」に編集しました。

また、平成24年度は、更に「雨風ゼミ」を発展させ、『家』、『暮』、『熱』、『農』、『水』をテーマに計25回のゼミを開催し、そこから、新しい協働が生まれつつあります。

(2) 地域間交流事業

「環境配慮型ライフスタイル」発信の担い手や、地域資源活用の専門家達の交流・育成を図り、実際に環境配慮型ライフスタイルを理解する人材が、地域のビジネス育成を支える環境づくりを進めました。

地域資源活用で先行している宮城県伊豆沼のNPO組織（NPO 田んぼ：理事長岩渕成紀のノウハウを活用するとともに、地域間交流を通じて農産物を中心とする地域資源の活用法を両地域で探るとともに、平成25年度はその活動を進め、子どもたちが地域の環境資源を学ぶプログラムづくりを、佐渡地域などにも広げ、実施しました。

(3) 地域環境資源活用起業塾プログラムの実施

地域資源活用型環境ビジネスを担う人材を育成するため、「小金井市環境配慮住宅型研修施設（環境楽習館）」を拠点に、インターネット環境も活用し、地域資源活用型環境ビジネスの起業塾（++セッション）を実施しました。

実施した結果、新しいビジネスへのチャレンジに向けて、起業するメンバーも現れました。

3. マルチステークホルダーの概要

- ・NPO グリーンネックレスが起業塾や交流イベントの運営および、『地域資源活用型ビジネスを生み出す、環境配慮型ライフスタイル推進事業』の事務局を担いました。
- ・「雨デモ風デモライフラボ」が、「環境配慮住宅型研修施設」でのカフェ運営や共同研究(雨風ゼミ)を運営・実施しました。
- ・法政大学エコ地域デザイン研究所が共同研究の実施・指導を行います。
- ・NPO 田んぼが、地域の環境資源把握の実践ノウハウを提供し、宮城県内陸部での地域間交流の企画・運営を担いました。
- ・小金井市が「環境配慮住宅型研修施設」の施設の所有・運営及び場所提供支援を行い、協働のつなぎ役を担いました。

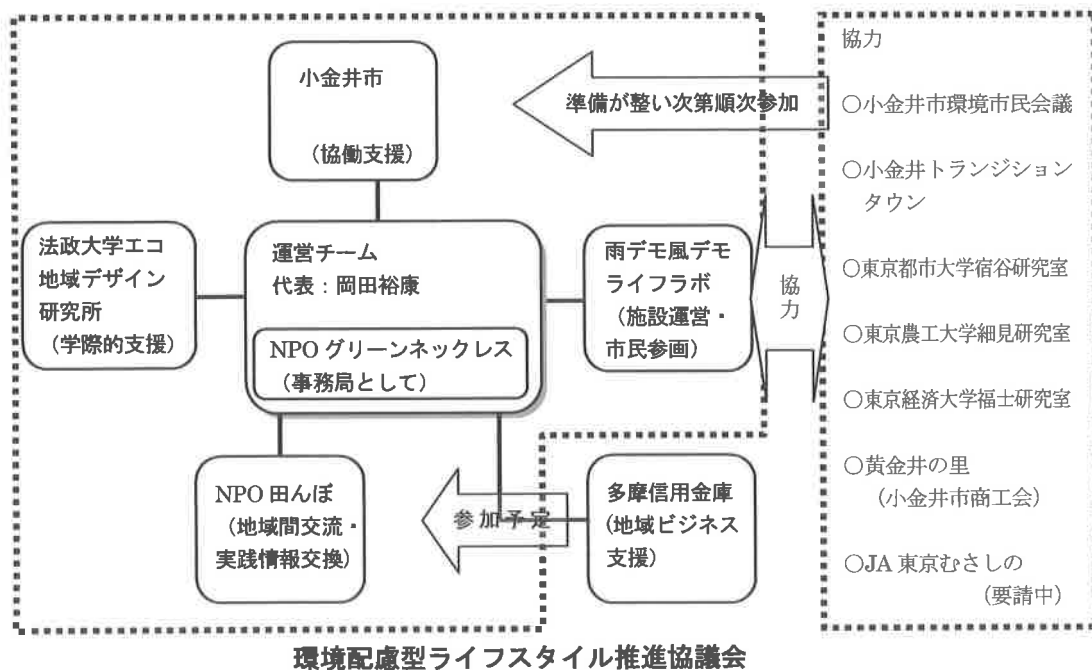


図 『地域資源活用型ビジネスを生み出す、環境配慮型ライフスタイル推進事業』に係るマルチステークホルダー

4. 実施事業の詳細な内容

(別冊資料参照)

5. 事業実施上の課題

(1) 様々な専門家・研究者の関与した雨風ゼミの実施

法政大学エコ地域デザイン研究所出口清孝教授、永瀬克己教授、東京都市大学宿谷昌則教授、東京農工大学細見正明教授、東京農業大学船橋玲二教授など、様々な学識者の協力を得るとともに、女性建築技術者の会などの専門家組織の協力も得て、雨風ゼミを実施しました。

市民と専門家・研究者の新しい協力関係の構築に成功しました。この研究の関係を通して、小金井市外でも新しい研究プログラムスタートさせる計画が進んでいます。

■ 冬季の温熱環境

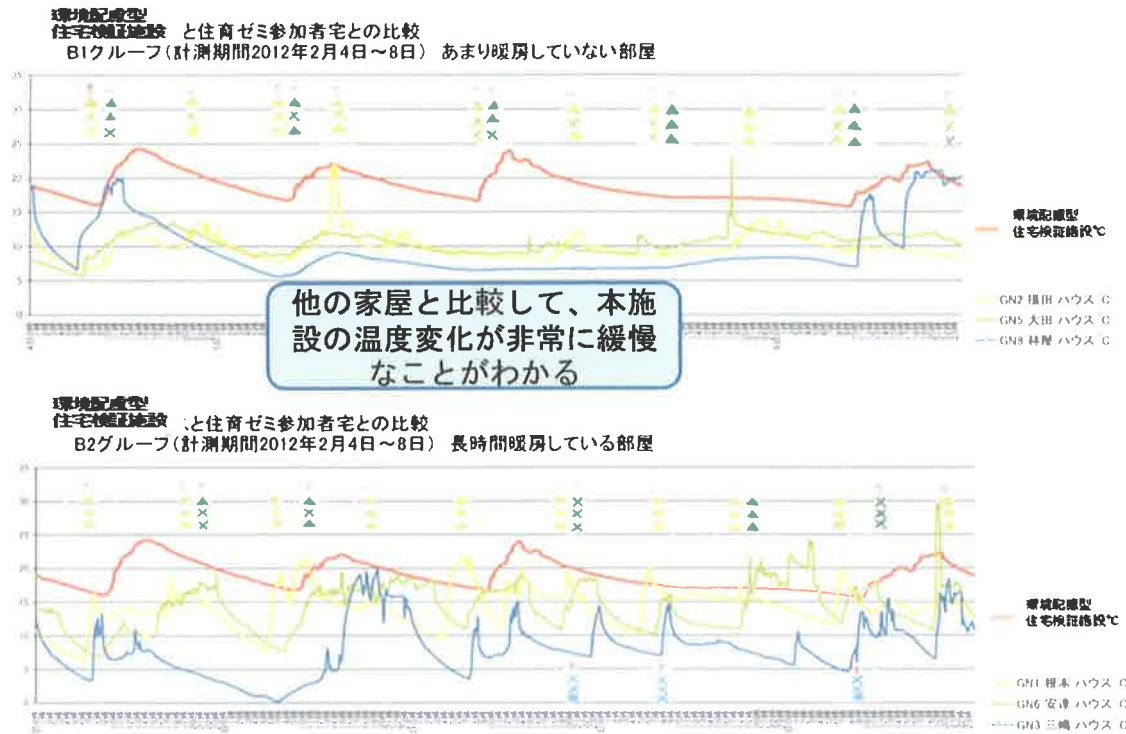


図 女性技術者の会の協力を得て行った温熱環境計測結果の比較

(2) 新しいタイプの起業プロセスのデザイン

本事業でスタートした、++セッションは大きな評判を呼び、合同会社++として起業し、事業をスタートさせるまでに至りました。また、++セッションから

は皮むき間伐を進めている(NPO)森の蘇り(代表：大西義治)と協力し、多摩産材の有効活用を図るプロジェクトなどの、検討が進みつつあり、新しいタイプの起業プロセスのデザインを行うことができた。

(3) 都市と農村地域間交流の新しい関係づくり

被災地支援を行っている(NPO)田んぼの活動と、小金井市のNPO、地域組織との協力は、従来の支援する支援されるという関係を超えて、農村の知恵を学び、これを都市の環境への理解に活かす、一方、都市側は農村の活性化の支援を行い学び合う活動を実施できた。

そして、宮城県登米市だけでなく、新潟県佐渡市との交流にも拡がり、相互に学びあうネットワークづくりが進みつつある。

(4) 協議体の運営体制の強化

様々なステークホルダーの参加した、本プログラムは、事業の規模も大きく、事務局機能の強化が必要とされた。

このため、本事業の事務局を担う(NPO)グリーンネックレスがその事務局を行うこととなったが、事務局費用の負担が大きくなり、(NPO)グリーンネックレス自体の活動が一時的に行い難い状況となった。また、事務局の連絡に一部不備も発生した。

今後、こうしたマルチステークホルダープロセスを担う事務局体制の強化と事務局資金の確保が課題となっている。

(5) 協議体が行ってきた活動の発展的な展開

環境配慮型ライフスタイル推進協議会は、平成24年度をもって解散することとなったが、個別に参加してきた組織、例えば、小金井市商工会とは新たな協力関係が構築され、同組織から要請を受け学習会(写真参照)を実施、その後、武蔵野法人会と小金井市商工会の合同での講演会も実施された。こうした、関係を活かし、協議体が行ってきた活動を今後、発展させることが期待されている。



小金井市環境楽習館での学習会

6. モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

(1) 専門家・研究者と市民活動との新しい連携関係づくり

(NPO)などの市民の環境活動では、どうしても思い入れの部分が強く、客観的なデータ、資料に基づく判断が疎かになりがちであるが、本事業では、例えば、スケールの見方など、工学的な知も含め、専門家・研究者と市民活動の担い手が学び合うことで、新しい連携関係をつくることができた。

地域の研究・学習活動のプラットフォームづくりの一手法として、本事業のプログラムを紹介したい。

(2) 20代、30代の参加する広域交流プログラムの展開

町内会活動、市民活動全般は概して高齢化が進み、メンバーの大半は60才以上という組織も珍しくない。

こうした状況では、継続して地域を支える担い手を育てることも困難である。

本事業では、特に、広域交流プログラムの展開について、従来の(NPO)などの市民の環境活動からこぼれてしまう、20代、30代の担い手を育てるため、広域交流プログラムや++セッションなど様々なプログラムを実施した。

地域づくりに、20代、30代が参加するきっかけを作る一手法として、++セッションなど、本事業のプログラムを右に紹介したい。

++セッション 第1期 2011年10月~2012年3月 全6回
 地域事業者のゲストを呼ぶためのトークセッション！

1期目 2011年10月29日 (土) 14:30~17:30
**自然の力を利用して気持ちいい暮らしができる家、
 『南テモ風テモハウス』の秘密**

2期目 2011年11月19日 (土) 14:30~17:30
**世界で日本てくくん拡大している自然エネルギー利用。
 いま、日本でできるエトセトラを伝授！**

3期目 2011年12月17日 (土) 14:30~17:30
**誰も特筆も聞かせる「皮むき間伐」の木で家を建て、
 炭薪する国土の4割を救おう！**

4期目 2012年1月20日 (土) 14:30~17:30
**多様な生物が棲む田んぼは、エネルギーと知恵の宝庫。
 田んぼはど飯をつなごう！**

5期目 2012年2月18日 (土) 14:30~17:30
心と身体をつなげてエネルギーを最大限に発揮する！

6期目 2012年3月17日 (土) 14:30~17:30
好きなコト×良いコトで起業するフランチャイズを伝授！

++セッションプログラム

7. 平成 25 年度以降の予定

地域の環境問題解決に取り組む市民と行政・企業大学などの多様な「協働」を発展させることを目的に、平成 25 年度以降の活動を進めることとしている。

(1) 基本的な考え方

以下の 5 本柱で事業を進める。

- ① 環境配慮住宅型施設の活用の市民協働の実施
- ② 環境資源活用ライフスタイル市民協同学習実施
- ③ ビジネスと関わる地域間交流事業実施
- ④ 環境配慮型ライフスタイルを普及させるコミュニティアーキテクト活動
- ⑤ 地域環境資源活用起業塾の継続

(2) 今後の活動

以下の 7 点の活動を進めることを検討しています。

- ① 環境配慮型ライフスタイル推進協議会の解散
- ② 雨デモ風デモライフラボが核となり、WEB 上で参加した組織の情報を継続的に発信
- ③ 雨デモ風デモライフラボ主催で、大学、商工会、エクセルギーハウストットネット等と連携して実施される「雨風ゼミ」を継承
- ④ 民間企業や、商工会と連携し、NPO 田んぼ、および NPO グリーンネックレス主催で進められる、地域間交流事業を実施
- ⑤ NPO グリーンネックレス 1 級建築士事務所（24 年度の起業塾で誕生した組織のひとつ）がすすめる地域のコミュニティアーキテクト活動
- ⑥ 環境資源活用起業塾を合同会社タスタス（24 年度の起業塾で誕生した組織のひとつ）が継続
- ⑦ 地元活動を活かした世代間交流の推進

地域資源活用型ビジネスを生み出す、 環境配慮型ライフスタイル推進事業



平成24年度事業実施内容
および実績に関する報告書

環境配慮型ライフスタイル推進協議会

小金井市

NPO 法人グリーンネックレス NPO 田んぼ

雨デモ風デモライフラボ、法政大学エコ地域デザイン研究所

2012 3/31

平成24年度は、
以下の事業を行いました。

雨風ゼミの実施と、シンポジウムの実施

- ① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施

小金井と、宮城県内陸部を結ぶ地域間交流

- ② 地域間交流事業の実施

++セッションの実施と、WEBの立ち上げ

- ③ 地域環境資源活用起業塾第
二次プロトタイププログラムの実施

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【環境配慮型ライフスタイルシンポジウム】

レポート

環境配慮型ライフスタイル シンポジウム

主催：環境配慮型ライフスタイル推進協議会

後援：小金井市商工会、小金井市環境市民会議、東京都立多摩科学技術高等学校



エネルギーの

新しい考え方

小金井市が取り組んだ市民提案「環境配慮型モデル住宅・環境楽習館（旧愛称・雨デモ風デモハウス）」について、これまで（2010年）の活動報告と新しいエネルギーの考え方や地域資源についてディスカッションした。専門性の高くなりがちな建築や物理学の考え方と住み慣れたまちの「当たり前」を見直した日常的な視点が、同じテーブルで交わった。

2013年2月16日・都立多摩科学技術高等学校

●パネリスト（敬称略）

谷口信雄（東京都環境局）

黒岩哲彦（㈱アルキテクタ・建築家）

高井毅（㈱小嶋工務店・小金井市商工会）

石原弘一（小金井市環境部環境政策課）

山中元（法政大学院陣内研究室所属）

久保芳恵（元海外ツアーコンダクター）

司会：土肥英生（都市計画プランナー）

進行：池田敦子（NPO法人グリーンネットワークス）

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【環境配慮型ライフスタイルシンポジウム】

ダイジェスト

谷口信雄：エクセルギーハウスは何を目的につくられたか



エクセルギー住居には建築のパラダイムを変える可能性がある、と感じている。日本では概念が定まっていないので、その確立が目的のひとつだ。「エクセルギー」はエネルギーと物質の循環をもたせるもの。エネルギーの消費は東京が一番。また、CO2の原因の大半が建築にかかっている。東京都の地球温暖化対策の流れを受け、当初の目的を着実に展開していただきたい。失敗があったらそれも含めて我々の住まい方、それを直すことでCO2削減。消費生活の中でエクセルギーってなんだろう？ということを考えて欲しい。

黒岩哲彦：視点を歪ませてモノを見直す



エクセルギーはエネルギーの新しい考え方で、地球の全ての営みはエクセルギーによって引き起こされています。私たちは快適さの基準に気温を目安にしますが、実験住宅で計測すると室温よりも室内の壁や床や天井の周囲面温度が重要であることが理解できます。エクセルギーハウスは地球に降り注ぐ太陽の熱を雨水を媒介して集め、気化熱や風の流れを取り入れた設計です。窓を開け閉めする、熱をゆっくりと循環させるアジア型のローテク。身近な自然や人間の営みを生かしていく。エネルギーの基礎の計算方法を変える家です。

山中元：地元で学んだキャンパス生活の成果



大学近くの農家の全面協力を得、他大学の学生も集まって、最近「ベジハウス」を完成させました。小金井の農業は江戸東京野菜の取り組みが活発です。農家の産先野菜販売所の数も多い。工学部建築科永瀬ゼミの課題は産先販売所のデザインで、コンセプトは小金井産の野菜や多摩産材の木材を多くの人に知ってもらおうと、間伐材の製材や地元工務店の指導協力を得て組み立ててきました。地元の監理専門店のサポートで、自分たちでのれんを監理したり、野菜スライスを挟み込んだ和紙の天井は外光でシルエットが楽しい仕上げになり「金菜屋」とネーミングしました。

石原弘一：小金井の市民力



市民の方から実験住宅の経過報告がお話されました。モデル住宅は、公募で愛称を「環境楽習館」と命名され、環境に興味を持つ市民の裾野をひろげたいとしているところで、小金井市が他市に誇れる施策に雨水浸透ますがあります。昭和40年代の施策で、野川がきれいになった。近隣市でも取り組み、武蔵野台地の雨水涵養を進めています。環境配慮型住宅は、雨水を使って温か涼しさの仕組みがあり、小金井市が取り組むことになりました。谷口さんから「エクセルギーの理念をもっと伝える」という宿題ですが、ステップを踏んでいけたらと考えます。

久保芳恵：東京郊外小金井の魅力



先ほど、小金井市では自慢できることがあまりないというお話でした。私は越してきて8年ですが、すぐ近くを流れる野川の風景にすごいなあと。ハケという地形で湧水の流れであること、その流れを市民が守ってきたことを最近知り30年前の市民活動に感謝しています。小金井には自慢できることがたくさんあります。観光というのはその土地の光を観ることなのです。現在、市民がまちをガイドできる仕組みづくりが検討されています。東京郊外25キロ圏で中央線の交通にも、南北にある都立公園の自然環境にも恵まれている。小金井を歩きに来ている人が大勢いることなども知っていただきたいです。

高井毅：空気を使う家づくり（小金井商工会・村越会長代理として）



地元で創業47年の工務店として環境に配慮した住宅づくりでは、先ほど谷口さんが話された寒くならたら首にマフラーを巻きコートを羽織るのと同様に住宅で外断熱の家づくりをしています。日本の昔からある木造を、高気密高断熱ですっぽり包み、家の衣替えを床下で操作します。夏は外の空気を壁の中で回すソーラーサーキットのシステム。空気をどうやって使うかという家づくりです。冷暖機器の使用量が削減できたといわれます。当社では、「多摩の木と暮らす家」を勧めるウッドマイレージで、あきる野の森の循環に寄与しています。

永瀬克己：「小金井学」と「雨風ゼミ」



エクセルギーは、生き方に繋がっています。宇宙からミクロ世界まで視野に入れ、各人の位置から行動してゆく。前年度比伸び率を説く主義から、環境のゆたかさを説くことへ。歴史的に培ってきた和の空間は「何もない空間」、散逸でかわる「人間の振る舞いの為の原空間」です。利便を求め過ぎ溢れたモノに空間と時間を奪われたことから脱し、環境に身を開放する。モノ事と対話することで「バランス」がみえてきます。その立ち居が、美しい「作法」となっていることを望みます。小金井にある大学の学生たちによるフィールドワークが、地元のみなさんとの共有ビジョンになっています。

池田敦子：森の役割を持つ実験住宅

シンポジウムの底流には、CO2削減には、限りある化石燃料を遠方から運び大量生産された電気エネルギーを大量消費する都市に遠くから運び込む生活スタイルではなく、今、ここにある身近な自然のエネルギーを使う技術（エクセルギーの生活）を普及するために何ができるか、という問いがあった。パネラーの皆様の報告を受け、シンポジウムで共有できたことは、もっと、きちんとエクセルギーに向き合おうということと、今後も、このようなオープンな情報共有という在り立ちの人が話合場が必要という2点だった。雨風ハウスの実証データの記録は新たな技術の提案に活用し、普及には制度や施策の転換も必要ではないかと、実験住宅が私たちに問いかけている「こと」ではないだろうか。



土屋正忠（衆議院議員）



会場から

武蔵野市長を23年務め、その間に中央線高架化事業における「環境共生」の視点を提案する市民団体グリーンネットワークとの関わりから本日は伺った。当時、市では公共施設設計では、冬あたたかく夏は涼しいパッシブソーラーの考え方や燃料電池もすでに導入していた。地域社会・現場から先駆的な取り組みをする。特に住宅は身近なテーマ。現在は国会議員だが、国の役割は制度をつくることで合意形成に時間を要する。その点、市長は範囲は小さいが権限がある。小金井市環境配慮型住宅を見学したがこれからは期待できる。

小淵昌夫（小金井市商工会、武蔵野法人経営研究会担当）

システム検証された成果を今後どのように使うのか。施設はどのように使われたのか？これまで何人が利用しているのか？
→石原：昨年秋からの使用申請数や見学体験された方は述べ2500名でした。市では、市報等で告知し、施設を市民の方々にアクティブに使っていただきたい、と考えています。



① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【アンケート抜粋】

■水ゼミ 1/26 開催

滄浪泉園、貫井神社、野川…

このあたりのいつも気になっていた小さな点と点がつながりとても興味深かったです。日常の中に「？」少しフシギに思うような場所、これからも気にとめておこうと思いました。(40代女性)

■暮ゼミ 8/8 開催

地球の話ともなるとスケールが大きすぎて、チンプンカンプンになったり、さもすると興味を持たず眠くなりそうな内容を、設楽さんは受講者にクイズのようにして問いかける形式をとって考えさせ、緊張感と楽しみ感をもって進行してくださりました。

そして内容の詳細(文献や学術的なこと)はプリントにして配布していただき、歴史も物理も生物も専門用語を知らなくとも理解できる地球の循環の話になりました。

『農業主体の暮らし方の中で「晴れの日」と「ケ」の日が生まれ、以来ずっと「晴れの日」が続いている状態なのが都会である。』こんなキーワードがダイレクトで新鮮です。(女性)

■家ゼミ 9/8 開催

できるだけ身近にある自然の恵みを活用する。人の住む環境を安全で健康で快適であるようにする。身体も建物も同じしくみである。快適に過ごせる様子が良くわかった。家の中での温度が良くわかった。勉強になりました。(50代女性)



アンケート回収総数：のべ約180枚

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【目標達成度】

【当初の予定】

市民と大学が行う共同研究へ参画する市民の人数によって、地域環境保全・活用の作法を理解する市民の増加数を測る。

目標：参加者のべ 300 名 (20 回分)



【実施後の結果】

参加者：のべ 394 名 (22 回分)

+

【内訳】

熱ゼミ：42名 (2回開催)
農ゼミ：50名 (1回開催)
暮ゼミ：160名 (7回開催)
水ゼミ：66名 (3回開催)
家ゼミ：76名 (9回開催)

シンポジウム
参加者：のべ 65 名

② 環境資源活用リーダーを育てる地域間交流テストプログラムの実施

【概要】

小金井と伊豆沼を中心とする宮城県内陸部で交流を行います。23年度は次年度に向けた枠組み作りのための準備期間として設けましたが、実際には具体的な交流プログラムがスタートしました。



A:世界一田めになる学校フィールドデイズ

【日時】平成 25 年 2 月 2 日(土)～2 月 3 日(日) 1泊2日

【場所】佐渡市新穂潟上 トキ交流会館とその周辺

【主催】NPO 法人田んぼ、佐渡生きもの語り研究所 【協力】雨デモ風デモライフラボ

【後援】新潟県佐渡市 宮城県大崎市・豊岡市

「音」にフォーカスし、地域資源を掘り出し、表現手段を身につける力を磨くワークショップ。23年度の交流プログラムで培われた、小金井・宮城県内陸部両地域の「地域資源を見つけ、表現として編集する力」を身に付けるプログラムを佐渡において行った。

小金井、宮城県内陸部から専門家と市民が佐渡に行き、宮城県内陸部、佐渡の子どもたち15名とワークショップを実施。

島内のさまざまな場所で、五感を使って「その土地特有の音」を聞き取り、それをメモにし、フィールドワークの後に、会場でそのメモをもとにその土地の「音マップ」を共同で制作していった。



B:ササニシキ復活シンポジウム 第二回

【日時】平成 25 年 3 月 2 日(土) 13:00～17:00

【場所】宮城県大崎市古川 ふるさとプラザ

【主催】NPO 法人田んぼ、宮城の伝統品種ササニシキ復活と生物多様性を育む都市農村交流PJ 環境配慮型ライフスタイル推進協議会

23年度にはじまった「ササニシキ復活シンポジウム」の第二回。

前回に引き続き、起業塾で培ったノウハウを活用したワークショップ形式で開催。宮城県内陸部の特産である「ササニシキ」の普及・推進を行うため、生産者、研究者、NPOのスタッフ、市民活動家、食品メーカー、デザイナー等、多様なステークホルダーが集まり、ササニシキを活かした新商品の開発、マーケティング、販路づくりのアイデアをワークショップ形式で共有し、実現可能なプランニングに落としこむプログラムを行った。

この回では、小金井側からも4名が参加し、東京での販路開拓、マーケティングのアイデアを出し、宮城側の生産者やメーカーとネットワークを構築し、次年度以降の継続的な事業作りを検討した。



② 環境資源活用リーダーを育てる地域間交流テストプログラムの実施
【目標達成度と成果】

【当初の予定】

目標：参加者のべ 60 名（両地域で）



【実施後の結果】

参加者：のべ 64 名

【内訳】 A: 世界一田めになるフィールドデイズ 31 名（うち小金井側 3 名、宮城側 12 名）

B: ササニシキ復活シンポジウム 21 名（うち小金井側 4 名）

調査作業に関わった市民専門家 のべ 12 名

③ 地域環境資源活用起業塾第二次プロトタイププログラムの実施 【概要】



第1回 エコクッキングと発酵食

日時：2013年1月21日（月）13:00～16:00

参加費：1,000円

カフェスローのキッチンディレクター・
新納平太の料理教室。

メニュー▶丸ごと野菜のコトコトポトフ
／エコな土鍋で炊くご飯／ぴゅあハムカリ
カリカーボンのサラダ、柿の酵素ドレ
ッシング／黒千石豆のぜんざい・茶など

講師：新納平太

フードチームリーダーとして愛知万博、各種環境型イベント
等でのキッチン運営を担当。2児の父で主夫業が専門。



新納平太氏

第2回 おしゃべり味噌

日時：2013年2月4日（月）13:00～16:00

参加費：2,000円（持ち帰りの味噌&味噌の食事付き）

徹底的にこだわり抜いた「大豆」、「麴」、「塩」を使っ
ての贅沢味噌作り講座&地域の手前味噌を持ち込み自慢大会。新納
平太シェフの味噌料理付き。

講師：齊藤超・新納平太

谷津田と森に囲まれた小さな山の中にある千葉県匝瑳市で、
1300年続いている農家の齊藤超さん。味噌は在来種・無農
薬の大豆を用い、麴も自家製玄米で仕込んでいる。

第3回 発酵ワールド

日時：2013年2月18日（月）13:00～16:00

参加費：1,000円

目には見えない摩訶不思議な無限に広がる「菌」についてのお話。
(発酵と腐敗について、麴、腸内環境と発酵物etc…)

講師：伏木暢顕

醸造料理人であり、日本の発酵食文化伝承人。発酵食・麴人
気の本役者の一人で、「発酵王子」として親しまれている。

持続可能な食生活を 暮らしとビジネスに

24年度の事業は、「持続可能な食」にフォーカ
スしたワークショップを開催した。

伝統文化である発酵醸造の技術やオーガニック
フードなど、風土に根ざし環境負荷をかけない
食のスタイルを学び、実生活や事業に取り入れ
れることを目指し、座学と試食会、クッキング講習
などを行った。

講師には、持続可能な食のありかたをビジネス
として実践している専門家を招聘し、地域の市
民、飲食店のスタッフや経営者、料理研究家や食
に関する商品を扱う事業者などに呼びかけて、
日々の生活に取り入れることはもちろん、持続
可能な食の知識と技術を取り入れた事業をつく
る可能性を探った。



③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施 【各プログラムの内容】

小金井と伊豆沼を中心とする宮城県内陸部で交流を行います。23年度は次年度に向けた枠組み作りのための準備期間として設けましたが、実際には具体的な交流プログラムがスタートしました。



第1回 エコクッキングと発酵食

■講師：新納平太

出来るだけ生ゴミをださないための料理方の技術や知恵を、いかに楽しく、手軽に日々の生活に実践をしていけるかを講師から指導を受けながら、調理実習をする。

なるべく電気や火を最小限にして調理するため、皮もむかない、根っこも丸ごとのポトフなどを参加したみなさんと一緒に料理する。参加した方々は、みなさんこの調理方法などにとっても驚いた様子でした。



第2回 おしゃべり味噌

■講師：斎藤超・新納平太

体内環境を良くする発酵をメインとした料理を料理。プロジェクターを使用して、発酵についての説明を斎藤から説明を受けた後、こだわりぬいた材料を使用して、みんなで味噌作りを行いました。味噌作りが終わった後、みんなで味噌を使用した料理を頂きながら、参加者が持ち寄った手作り味噌の自慢大会を開催。



第3回 発酵ワールド

■講師：伏木暢頭

体内環境を良くする発酵や菌を深く知る講座。醸造料理人、日本の発酵食文化伝承人である伏木さん講師に、目には見えない摩訶不思議な無限に広がる「菌」についてのお話をうける。(発酵と腐敗について、麹、腸内環境と発酵物 etc…)

目から鱗のお話に、みなさんととても夢中になってメモをとられていました。

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施
【目標達成度と成果】

【当初の予定】

目標：実施回数 24 回
参加者のべ 200 名



【実施後の結果】

参加者：のべ 64 名

【内訳】 1回目：24名 2回目：22名 3回目：18名

事業スケジュール一覧

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究

2012 5月

2012 6月

- ・事前打ち合わせ
- ・計画策定
- ・スケジュール調整等

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 水ゼミ第1回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第1回開催

2012 8月

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 熱ゼミ第1回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第1回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第2回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 農ゼミ開催

② 地域間交流事業の実施

- ・事前打ち合わせ
- ・計画策定
- ・スケジュール調整等

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 熱ゼミ第2回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第2回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第3回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 水ゼミ第2回開催

2012 10月

③ 地域環境資源活用起業塾第二次プロトタイプ

- ・事前打ち合わせ
- ・計画策定
- ・スケジュール調整等

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第3回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第4回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第4回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第5回開催

2012 12月

3 地域環境資源活用起業塾第二次プロトタイプ 第1回 エコクッキングと発酵食

3 地域環境資源活用起業塾第二次プロトタイプ 第2回 おしゃへり味噌

2 地域間交流事業の実施 A: 世界一田めになるフィールドイス

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 環境配慮型ライフスタイルシンポジウム

3 地域環境資源活用起業塾第二次プロトタイプ 第3回 発酵ワールド

2 地域間交流事業の実施 B: ササニシキ復活シンポジウム 第二回

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第5回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第6回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第6回開催

2013 2月

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 水ゼミ第3回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第7回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 暮ゼミ第7回開催

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第8回開催

2013 3月

1 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究 (雨風ゼミ) 家ゼミ第9回開催

地域資源活用型ビジネスを生み出す、 環境配慮型ライフスタイル推進事業



平成23年度事業実施内容
および実績に関する報告書

環境配慮型ライフスタイル推進協議会

小金井市

NPO 法人グリーンネックレス NPO 田んぼ

雨デモ風デモライフラボ、法政大学エコ地域デザイン研究所

2012 3/31

平成 23 年度は、
以下の事業を行いました。

雨風ゼミの実施と、研究結果の冊子編集

- ① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施
- ② 環境資源活用ライフスタイルカタログ作成

++セッションの実施と、WEBの立ち上げ

- ③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施
- ④ 環境資源活用起業支援 Web 立ち上げ

小金井と、宮城県内陸部を結ぶ地域間交流

- ⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【概要】

普段大学院等でしか学べない高度な環境技術を、一般市民と大学が共同で研究。地域資源についての知識を深め、市民の中から次年度に学習会をコーディネートできるような人材を育成する機会として、「雨風ゼミ」を、熱・農・暮・水・家の5テーマで開催した。

熱

コーディネーター：黒岩哲彦（雨デモ風デモライフ・ラボ建築チーム）

住育ことはじめ～エクセルギー理論から住まいを考える

「温かさ」に焦点を当て、誰でも簡単にできる計測方法を身に付け、温かさを感じる仕組みについてワークショップ形式で学習します。身体で感じ取る力を養い、身近な建築環境を理解し、雨デモ風デモ環境配慮型の暮らし方を身に付けます。

■1/13(金)10:00～13:00：理論と実測方法を学ぶ

■2/16(木)10:00～13:00：実測データを眺む

※会費は無料ですが、昼食代(¥1,000前後)を頂きます。
※女性建築技術者の会有志の協力で進めています。

【講師】宿谷昌則

東京都市大学環境情報学部・大学院環境情報学研究科教授。身近な環境空間（建築環境）、そのほどこい状態はどのようにして割り出したらよいかを照明や暖房・冷房・換気の具体的なシステムを対象に研究。「資源性」とその「消費」を定量的に表現できる「エクセルギー」の概念を一貫して用い、「持続可能な人間社会」のありかたを提唱している。

※会場にて「住育ことはじめ」の冊子の販売もおこないます。



農

コーディネーター：瀧本広子（雨デモ風デモライフ・ラボ庭師チーム）

生物多様性の発見！～小さな水路からふゆみずたんぼまで

小さな水路の微生物から、地球を横断する渡り鳥にまでいたる生態系。本来のエコロジーの意味する、暮らしの中で生物多様性を実感する仕組みを「ふゆみずたんぼ」と雨デモ風デモハウスの水路から探ります。

■1/22(日)13:30～16:30

※2/4～6に宮城県伊豆沼でフィールドワークを行います。詳細は、coyo-llaten@jcom.home.ne.jp(瀧本)まで。

【講師】岩淵成紀

宮城県立田尻高校教諭等を経て、06年に「NPO法人たんぼ」を立ち上げる。雁、カモ類の生息地の復元を目指し、冬でも水田に水を張る「ふゆみずたんぼ」を提唱する。たんぼの生きもの調査など、子どもから大人まで興味を引き出す環境教育を実践中。



暮

コーディネーター：安達亜紀（雨デモ風デモライフ・ラボ代表）

アーバンパーマカルチャー～都会の農的暮らしとコミュニティ

都市を消費だけの空間ではなく、食べ物、人と人の関係、自然も創造して、人も文化も育つ豊かな空間に変えていく動きを神戸や海外の実践例から、小金井で出来る事を探ります。

■2/19日(日)13:00～16:00

(第1部) 都会での農的暮らし方について
(第2部) 都市でのコミュニティづくりとその役割

【講師】設楽清和

パーマカルチャー・センター・ジャパン代表理事。国際認定パーマカルチャーデザイナー。上智大学外国語学部フランス語学科卒業後新潟で農業に従事。環境と人間のあり方を研究対象とし、ジョージア大学大学院にて人類学を専攻。帰国後パーマカルチャーに取り組み。



水

コーディネーター：高畑恒志（雨デモ風デモライフ・ラボ技証計測チーム）

きれいな水ってどんな水？～地域で見つめる水の循環

台所の排水から、野川の水質まで、地域の様々な水の環境を全体として理解することで、腐敗と富栄養化の違い、化学的汚染と生物汚染の違い等を学び、「きれいな水とは何か」を、ワークショップ形式で学びます。

■2/26(日)14:00～17:00

【講師】細見正明

東京農工大学共生科学技術研究院 応用化学部門教授。環境動態解析、環境技術・環境材料、土壌環境システム、生物機能・バイオプロセス、リサイクル工学、生態・環境、土壌汚染、底質汚染などについての調査研究をおこない、国および地域の問題の解決に取り組んでいる。



家

コーディネーター：岡田裕康（雨デモ風デモライフ・ラボ建築チーム）

気候と住居・かたちを読み解く～環境と住まいの関係

世界各地の地域によって、環境に適した住居の形態は異なります。モンスーン気候と砂漠気候と例に、環境と住居との関係を理解し、建築の成り立ちを読み取る面白さを伝えたいと考えています。

■3/7(水)15:00～17:00

【講師】出口清孝

法政大学エコ地域デザイン研究所教授。気候・風土に適応し、歴史的・伝統的に培われてきた特異な建築「風土建築」を、現地調査ならびに数値流体シミュレーションを駆使して建築環境工学的に検証している。



① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施 【アンケート抜粋】

■熱ゼミ(講師：宿谷さん)

熱を逃がさないために、アルミ箔を敷くといいか、カーテンは床に引きずる方が断熱効果がいいという話に、身近なことで簡単にできることがあると気づきました。家のことは専門家に任せないと何もできないと思いがちですが、寒い時は「どうやって家にマフラーを巻くか」と考えるのは楽しいとことですね。こういう小さな工夫を、見た目よく、使い勝手よく、どのように納めるか、そこが設計者の腕の見せ所だと思いました。(40代 女性)



・計測データの処理を専門にしています。今回の計測で使われたシステムをもっと、簡便に使えるようにして、温度変化を常時キャッチできるようにすれば、「お年寄りの見守り」など、全く違った分野で活用できるのではないかと、参考になりました。(40代 男性)



■暮ゼミ(講師：設楽さん)

ゼミはとても面白かったです。テキストもありましたが、設楽さんのお話が面白く、どんどんゼミ生に話をふってくるので、下を向かないで進む、メリハリのあるいい感じの3時間になりました。

中間に外での時間があつたことにより、天気がよかったこともあり、頭もすっきりし、言葉と実体をつなげることができました。たくさん忘れていたことがあるなーと痛感し、また刺激にもなりました。ふだん家にいることが多く、人と長い時間話す機会も少ないため、言葉がずっと、出てこないもどかしさが多々ありました。(30代 男性)



■家ゼミ(講師：出口さん)

スライドが多用されて、それを見ながらの解説が聞けたので、大変わかりやすかったです。世界には、その土地の特性を利用した様々な住まい方があることを、あらためて知りました。自然のエネルギー(気温の変化etc, 含め)を上手に活用しながら先人たちが工夫し得てきた知恵には見習うべき点が多くあり、私たちも自らの環境をよく観察しながら活かしたら良いと思いました。(40代 女性)



アンケート回収総数：58枚

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施
【目標達成度】

【当初の予定】

市民と大学が行う共同研究へ参画する市民の人数によって、地域
環境保全・活用の作法を理解する市民の増加数を測る。

目標：参加者のべ 30 名 (3 回分)



【実施後の結果】

参加者：のべ 179 名

【内訳】

熱ゼミ：65名 (2012 1/13・2/16 開催)

農ゼミ：38名 (2012 1/22 開催)

暮ゼミ：21名 (2012 2/19 開催)

水ゼミ：22名 (2012 2/26 開催)

家ゼミ：33名 (2012 3/7 開催)

②環境資源活用ライフスタイルカタログ作成 【概要】

【雨風ゼミ講義録】

雨風 BOOK (B5 版 64P)

①環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施（雨風ゼミ）の内容を編集し、一般市民向けにも環境技術の基礎をわかりやすく伝えるためのビジュアルブックを作成した。

また講義録だけでなく、市民が行った検証・計測の様子等も収録。身近な暮らしの中で環境技術の見識を深めるきっかけとした。

編集は、長年小金井を中心に地域のミニコミ誌を制作してきた市民スタッフがチームを組んだ。

3月に入稿。4月以降、300部程度を雨デモ風デモハウス等で配布予定。



【ライフスタイルコンセプトブック】 雨風ライフガイドブック (B5 版 16P)

①環境資源活用ライフスタイル市民共同研究実施（雨風ゼミ）の基本となる考え方である、雨デモ風デモハウスの技術解説を中心に、環境配慮型のライフスタイルを漫画でわかりやすく編集した小冊子。温熱環境や自然エネルギーの活用、バイオマスの仕組みがダイジェストで解説される。

制作は、小金井周辺に住む編集者、イラストレーター、デザイナー、建築家がチームを組んで制作した。

3月に入稿。4月以降 1,500 部程度を雨デモ風デモハウス等を中心に配布する。

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施 【概要】



地域資源活用型ビジネスを生み出すための起業塾立ち上げに向けて、その実験的なプログラム「10+セッション」を企画・運営する。全6回の講義とワークショップを開催。様々な種類のビジネスプランの考案を目指した。

第1期 2011年10月～2012年3月 全6回 地営業者のゲストを呼んでのトークセッション！

11年10月29日(土) 14:30～17:30

**を利用して気持ちいい暮らしができる家、
「デモハウス」の秘密**

百彦さん(建築家 アーキテクタ都市建築設計室 代表)

「デモハウス」をコンセプトとする「涼の家」を築き、2007年から(エコエネルギーハウスシリーズ)を関東一円で展開。東京都から先進的技術として評価され、「雨デモ風デモハウス」に技術を導入。三井住友建設(200シリーズ)、三井ホーム(環境共生住宅の環境配慮型技術導入のプロタイプ開発)にも携わる。元東京理科大学建築学科講師、東京建築賞、リビングデザイン賞、新築環境デザイン賞、大地に還る住宅建築賞、その他受賞。http://homepage2.nifty.com/



2回目 2011年11月19日(土) 14:30～17:30

**世界で日本でぐんぐん拡大している自然エネルギー利用。
いま、日本でできるエトセトラを伝授！**

ゲスト:箕輪弥生さん(環境ライター/NPO法人『そらべあ基金』理事)

東京生まれ。立教大学卒。1989年にフリーランスのマーケティングプランナーとして独立。その後、幅広いメディアで、環境と暮らしをテーマにした情報発信や、環境に配慮した商品の企画・開発などを行っている。著書に「エネルギーソフト」に向けて「節電・省エネの知恵123」「環境生活のススメ」(泉島裕社)「LOHASで行こう!」(ソニー・マガジンス)などがある。自身も自然エネルギーや雨水を活用したエコハウスに住む。http://gugreen.pellil.co/



3回目 2011年12月17日(土) 14:30～17:30

**森も林業も甦らせる「皮むき間伐」の木で家を建て、
荒廃する国土の4割を救おう！**

ゲスト:太西義治さん(NPO法人 森の蘇り 代表)

コピライター、プランナーとして東京圏内で経験したのちに独立して静岡県富士宮市に帰郷。富士山麓がヒノキの宝庫であるにもかかわらず、戦後に植林された森の間伐が薄れ、それが森林の荒廃や土砂崩れなどの課題の原因となっていることを知り、間伐(むくくり)と木材流通(木づかい)を両輪とする活動に取り組み。現在は、誰もが出来るむくくりの手法として「きらめ樹(皮むき間伐)」の普及と、「きらめ樹材」の活用を推進中。http://mori-no-yomigaeri.org/



4回目 2012年1月21日(土) 14:30～17:30

**多様な生物が棲む田んぼは、エネルギーと知恵の宝庫。
田んぼと都会をつなごう！**

ゲスト:岩淵成紀さん(NPO法人 田んぼ 理事長)

仙台市内の公立教員を経て、兵庫教育大学生物学科修士課程終了、仙台市科学館学芸員、宮城教育大学客員教員、宮城県立国際高校教諭を経て、06年に「NPO法人田んぼ」を立ち上げ、仙台から田原に移住。カンカモ猪の冬の間みやみり、コウノトリやトキの生息地の復元をめざし、冬の水田に氷を張る「ふゆみずたんぼ」の実践的研究を展開。田んぼの生きものの保護など、子どもから大人の興味を引き出す多様な環境教育を実践中。http://www.gencities.jp/npotambo/



5回目 2012年2月18日(土) 14:30～17:30

心と身体をつなげてエネルギーを最大限に発揮する！

ゲスト:古川圭子さん(ハイダウェイアロマ主宰)

1996年から宮城寺でアロマセラピーサロンを主宰。近年は、施術を通してお客様の体験!もろろん、こころの共感についてもメッセージ(言葉と感情)を受け取る「ホディリーディング」を実践。1998年～2009年、地方自治体とWWB(ジャパン)が共同開催する企業および事業運営に関するセミナーで講師を担当し、各人がこころとからだを一致させて能力を発揮できるよう指導。福島県武蔵野市で子育て中のお母さん対象のハイマッサージ講習会も展開中。http://haidaway-aroma.com/



6回目 2012年3月17日(土) 14:30～17:30

好きなコト×良いコトで起業するプランニング術を伝授！

ゲスト:有村正一さん(口ハスガーデン/ガーデンラボ株式会社 代表)

世のためになる仕事を志して型ハン技術を習得し、JICAの海外派遣を志しも新沢が技術は不要と断られ、貴社会のニーズを捉かめるべくリクルートで営業を学ぶ。自然と共生する緑化商品の開発、愛・地球博「ボランティア、後継者」の推進(ボランティア)を経て2007年に起業。環境ワークショップの開催、出版、エコショップ運営(UNEP(国連環境計画)のサポーターとして環境商品の推進も担当。東日本大震災被災地支援プロジェクトの運営にも携わる。http://gardenlab.jp/



③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施 【ワークショップの様子】



付箋やシートを活用し、曖昧としたアイデアをプランに具現化

チームワークで育てる ビジネスプラン構想力

十セッションの特徴は、単なる講義ではなく、グループでのワークショップを通して、ビジネスアイデアを共有し、具体的なプランまで昇華させていく様々な実験的技法が使われていることである。



A: まずは各プレゼンターの講義から、各自キーワードを付箋に拾う。



B: 付箋に書いたことをグループで共有し、議論しながらアイデアを構築する



C: ビジネスプランをチラシ形式にし、参加者にプレゼンテーションする

【アンケート抜粋】

- ・一人の発想が全体へと広がり、どんどんよいものになっていく感覚が新鮮だった。(40代 女性)
- ・三時間にしばってプログラムをやるところが面白いとおもった。(30代 男性)
- ・突拍子もないアイデアに思えたのに、(チームで考えると) 全部つながっちゃいますね。(30代 男性)

アンケート回収総数：72枚

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施 【目標達成度と成果】

【当初の予定】

目標：実施回数6回
参加者のべ90名



【実施後の結果】

参加者：のべ89名

※有料参加者とボランティア参加者の合計

【内訳】 1回目：13名 2回目：9名 3回目：22名
4回目：23名 5回目：8名 6回目：14名

地域新聞【asacoco】掲載



【武蔵野三鷹CATV】から取材 武蔵野市発行【まなこ】掲載



実際にスタートしたビジネスプラン

■多摩の木材間伐・普及事業（たましん応援事業）

第三回に考案。参加者の（有）沖倉製材が事業部を立ち上げ2012年3月から開始。

■田んぼの四季カレンダー事業

第四回に考案。参加者の暦研究者の高月美樹さんが田んぼの講義を聞き考案。2012年秋頃からスマートフォンアプリとして運用開始。

④環境資源活用起業支援 Web 立ち上げ 【概要】

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラムの実施（＋＋セッション）のWEBを立ち上げた。さらに、各回の講師のプレゼンテーションの様子を動画に納め、WEB上に掲載している。



tasetasse.jp TOP ページ



各講師のプレゼンテーションの様子がWEB上で発信されている。(Youtube 運動)



集客・フォローアップはfacebookを活用した。

【PV数(2012 三月末時点)】

【WEB サイト】平均30程度

【facebook】

各回のべ120~180PV×6回

【動画】のべ700PV

⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり

【概要】

小金井と伊豆沼を中心とする宮城県内陸部で交流を行います。23年度は次年度に向けた枠組み作りのための準備期間として設けましたが、実際には具体的な交流プログラムがスタートしました。

【第一回交流】2012 2/4～2/5 雨デモ風デモライフラボのメンバー宮城訪問



厳寒のなか、渡り鳥の群飛を見学。



豊岡市を中心とする子供たちのワークショップをNPO 田んぼが開催。小金井市のメンバーが進行を努めた。



伊豆沼地域のNPO「あるもの探しの会」の講習に参加。小金井と宮城で議論を行った。

【第二回交流】2012 3/3～2/5 ++セッションのスタッフメンバー宮城訪問



NPO 田んぼ開催の「ささにしき復活シンポジウム」と、「++セッション」の共同企画。



宮城の自治体職員、生産者らと「++セッション」のワークショップを開催。(詳細は、参考資料)



ふゆみずたんぼの生き物調査に参加。水質検査等を行う。

【小金井での交流】

2012 1/21～22 NPO 田んぼ小金井来訪

NPO 田んぼ代表の岩淵氏が小金井の雨デモ風デモハウスで講義およびワークショップを開催。

小金井市民に生物多様性と有機農業についてレクチャーした。



2012 3/25～26 あるもの探しの会小金井来訪

伊豆沼のNPO「あるもの探しの会」が小金井において、地域資源の発見・活用方法について小金井市民にレクチャー。終了後は、小金井市の経済課の職員とともに「小金井タウンショップ」を視察。共同の商品開発などのアイデアを交換した。



⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり 【目標達成度と成果】

【当初の予定】

目標：参加者のべ 30 名



【実施後の結果】

参加者：のべ 35 名

※小金井側と宮城側双方を合わせたスタッフ数とし、レクチャー等への参加者は含まない。

【内訳】 1/21～1/22 4名（小金井2名、宮城2名） 2/4～2/5 12名（小金井8名、宮城4名）、3/3～3/4 14名（小金井9名、宮城5名）、3/25～3/26（小金井2名、宮城3名）



赤旗新聞掲載。

毎日新聞折り込みのフリーペーパー「マイ ECO」掲載。



事業スケジュール一覧

④環境資源活用起業支援 Web

- ・事前打ち合わせ
- ・デザイン・システム構築
- ・立ち上げ

2011 10月

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第1回開催

2011 11月

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第2回開催

2011 12月

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第3回開催

2012 1月

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第4回開催

⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり
NPO 田んぼ小金井来訪

2012 2月

⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり
雨デモ風デモライフラボ宮城訪問

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第5回開催

2012 3月

⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり
++セッション宮城訪問

③ 環境資源活用起業塾第1次実験プログラム
(++セッション) 第6回開催

⑤ 地域間交流事業の枠組みづくり
伊豆沼「あるもの探しの会」小金井来訪

② 環境資源活用ライフ
スタイルカタログ作成準備

- ・事前編集打ち合わせ
- ・チーム編成
- ・スケジュール作成等

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ) 熱ゼミ第1回開催

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ 農) 開催

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ 暮) 開催

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ 熱) 第2回開催

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ 水) 開催

① 環境資源活用ライフスタイル市民共同研究
(雨風ゼミ 家) 開催

② 環境資源活用ライフスタイルカタログ作成
編集・デザイン→入稿